



2015年以降から本年にかけて、受入割合が減少傾向にあります。

2014年10月の回復期リハ病棟開設以降、一般急性期病棟半減により受入可能病床数が大幅に減少しましたが、「地域からの要請を断らない」を合い言葉に積極的受入に取り組んできました。

しかし満床や個室部屋満室の為、断ざるえない場合があります。

特に本年2016年4~6月中、退院調整がうまくいかない事による満床状態が問題となった事から、

ベッドコントロール会議の開催、退院困難事例検討会、入院早期退院調整、カンファレンスの早期実施等の対策を行いました。それにより、病床の調整がスムーズに行われるようになり、結果救急車受け入れ割合の上昇にもつながりました。

